

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 繊維マテリアル活用事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 地場産業振興係 電話番号：058-272-1111(内 3095)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,700千円 (前年度予算額：2,700千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,700	0	0	0	0	0	0	0	2,700
要求額	2,700	0	0	0	0	0	0	0	2,700
決定額	2,700	0	0	0	0	0	0	0	2,700

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・本県の重要な地場産業の1つであるアパレル・繊維産業振興のため、岐阜県毛織工業協同組合が行う繊維マテリアル(繊維素材等の見本)の整理、管理及び活用に係る経費を助成する。

【経緯】

- ・平成15年度、岐阜県毛織工業協同組合から、ファッション産業・デザイン産業振興に役立てて欲しいとの趣旨で、県へ繊維マテリアル(約39,500点)の寄付があった。(以後毎年寄付を受け、現在109,467点(令和元年度末))
- ・以来、アパレル・繊維産業の振興を図るため、テキスタイルの産地である羽島市のテキスタイルマテリアルセンター(毛織会館内)において、繊維マテリアルの整備、管理事業を実施してきた。
- ・しかし、グローバル化による安価な輸入製品や後継者不足など、産地を取り巻く経済情勢が激しさを増す中、さらなる繊維マテリアルの活用によるアパレル・繊維産業の振興を図るため、平成29年度末に岐阜県毛織工業協同組合に繊維マテリアルを移管した。

(2) 事業内容

- ・テキスタイルマテリアルセンターで行う繊維マテリアルの整理、保管及び活用に係る経費を助成する。

(3) 類似事業の有無

- ・アジア最大規模の繊維総合見本市「ジャパנקリエーション（出展企業約1,000社）」に出展された、その年の代表的素材や新開発素材が集積されている国内最大かつ唯一の施設であり、類似事業は全国にも例がない。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	2,700	人件費 2,700 千円
合計	2,700	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「岐阜県成長・雇用戦略2017」

[3] 海外展開・販路拡大支援プロジェクト

(1) 中小企業の海外展開チャレンジ支援

(2) 国内におけるビジネスチャンスの提供

(2) 国・他県の状況

- ・なし

(3) 後年度の財政負担

- ・毎年同額程度の経費負担が発生する見込み。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・県内のアパレル・繊維産業振興のために、組合が所有する繊維マテリアルの整理・管理・活用を促進するものであり事業主体として妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	繊維マテリアル活用事業費補助金
補助事業者（団体）	岐阜県毛織工業協同組合 （理由）膨大な繊維マテリアルの整理・保管や、来館者への対応を適切に行う必要があるため。
補助事業の概要	（目的）アパレル・繊維産業の振興と発展を図る （内容）繊維マテリアルの整理、保管及び活用に係る経費を助成する。
補助率・補助単価等	定額・ 定率 ・その他（例：人件費相当額） （内容）補助対象経費の 10/10 （理由）自主財源に乏しいため。
補助効果	アパレル・繊維産業の振興と発展
終期の設定	終期：令和 3 年度 （理由）経済情勢等を踏まえ検討する。

（事業目標）

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか

アパレル・繊維産業の振興と発展を図り、ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくりを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H28 年度末)	目標 (R3 年度末)	目標 (終期)
① 来館者数	1,993	1,000	1,000

	H29 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度 (要求)
補助金交付実績	/	2,700 千円	2,700 千円	2,700 千円	(要求額) 2,700千円
指標①目標	/	2,000	2,100	2,200	1,000
指標①実績	/	2,265	2,355	/	/
指標①達成率	/	/	/	/	/

（前年度の成果）

・ 事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

○ 令和元年度までの素材サンプル収蔵状況（寄附明細）

JC インデックス素材	51,615 点	PTJ/ITS/MU インデックス素材	11,859 点
レディース素材	22,477 点	ニット素材	8,325 点
メンズ素材	13,376 点	メンズ見本帳	1,428 点

その他（産学コラボ）（ビジネスマッチング） 合計 109,467 点（＋その他見本帳多数） ○令和元年度 来館者数 2,355 人（来館者層：学生（大学、専門学校、高校）、企業（県内外、海外）、デザイナー等）	387 点
--	-------

（今後の課題）

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>県内のアパレル業界が、ライフスタイルの変化、安価な外国製品の流入など激しい変化に対応するため、付加価値の高い商品開発や販路の拡大といった支援が必要である。</p>
--

（事業の評価）

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） <p>○：必要性が高い △：必要性が低い</p>	
（評価） ○	<p>マテリアルセンターは、主に素材企画の参考資料、素材学習の中核拠点として活用されており、大学・専門学校等教員の視察、学生の学習、国の海外研修生事業、ファッションデザイナーによる素材企画のための参考視察を受け入れており、岐阜アパレルの魅力を国内外に発信するための拠点施設である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <p>○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
（評価） ○	<p>国内最大規模の同センターは、繊維関連企業や繊維デザイナーなどの活用も多く、また服飾を学ぶ学生の学習の場となっており、次世代のファッション産業を担う人材育成の場として機能している。</p> <p>また、県内繊維メーカーが大手アパレルメーカーと一緒に訪問し、素材を見ながら商談できる場でもあり、産業振興の機能を有する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <p>○：効率化は図られている △：向上の余地がある</p>	
（評価） ○	<p>人件費及び管理費ともに最低限の負担としており、常に経費の見直し図っている。</p>

（事業の見直し検討）

--

（終期到来時の翌年度以降の事業方針）

継続・削減・統合・廃止 （理由）
